



2024年7月12日

各 位

会社名 株式会社 ヴ ィ ッ ツ  
代表者名 代表取締役社長 服 部 博 行  
(コード:4440 東証スタンダード)  
問合せ先 取 締 役 脇 田 周 爾  
(TEL 052-220-1218)

### 2024年8月期の連結業績予想及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

当社は、2023年10月12日に公表いたしました2024年8月期(2023年9月1日～2024年8月31日)の連結業績予想及び配当予想を以下のとおり、修正することとしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日～2024年8月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,880	百万円 190	百万円 210	百万円 145	円 銭 35.51
今回修正予想(B)	3,400	210	270	170	41.70
増減額(B-A)	520	20	60	25	
増減率(%)	18.1	10.5	28.6	17.2	
(参考)前期連結実績 (2023年8月期)	2,501	187	224	133	32.46

#### 2. 2024年8月期の配当予想

	年間配当金(円)		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想 (2023年10月12日発表)	0.00	8.00	8.00
今回修正予想	0.00	13.00	13.00
前期実績 (2023年8月期)	0.00	8.00	8.00

### 3. 業績予想の修正の理由

#### ① 売上高

当社グループを取り巻く経済環境は、組込みソフトウェア、セキュリティ及びセーフティの技術分野が好調であり、自動車や産業機器製造業等の顧客からの開発依頼は高い需要を維持しております。このような環境の下、当社グループにおいて外部リソースの積極的な活用、コストや付加価値に見合った受注額の見直し等を進めた結果、売上高は前回予想を大きく上回る見通しとなりました。また、前回予想の業績に含まれていなかった株式会社クリスタライト（以下、クリスタライト社という。）、株式会社イーガー及びテスコ株式会社（以下、テスコ社という。）の3社が当連結会計年度に新たに子会社となったため、当該3社の売上高も連結売上高の増加に大きく寄与しております。

#### ② 営業利益

社内リソースに比べ相対的にコストの高い外部リソースの活用、給与水準の引上げ等により外注費や人件費が増大していること等により売上総利益率は低下し、また、本社移転に係るコストが当初見込みより増加した影響等により販管費は前回予想時を上回る見込みですが、売上高の大幅増加が牽引し、新規子会社3社を除いたグループ会社においては、前回予想の営業利益を上回る見込であります。

一方で、新たに子会社となったクリスタライト社及びテスコ社において、当連結会計年度は営業損失の見込であり、連結営業利益にマイナスの影響を与えております。クリスタライト社においては設立間もなく、販管費を上回る十分な売上及び売上総利益を実現できる段階ではないため、営業損失予想となっております。また、テスコ社においては、事業の特性上9月及び3月付近に売上が集中し利益貢献する傾向にありますが、当連結会計年度の連結損益計算書への取込が4月から8月の業績であるため、販管費を上回る売上総利益を計上できず、営業損失となる見込みであります。

上記の結果、新規子会社の損失による影響はありますが、新規子会社を除いたグループ会社による営業利益上振れ分が寄与し、連結営業利益は前回予想を上回る見込であります。

#### ③ 経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

当社における保険契約の見直しを行い、第3四半期連結会計期間に一部の生命保険契約を解約したことにより前回予想時よりも営業外収益が大きく増加した結果、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を上回る見込みであります。

### 4. 配当予想の修正の理由

当社は、本日開催の取締役会において、下記に掲げる資本政策及び配当政策を定め、その方針に基づき2024年8月期の配当予想を修正することを決議いたしました。新たな配当方針においては、資本効率を意識した経営を推進するとともに継続的かつ安定的な配当を実現するため、DOE（連結株主資本配当率）を配当還元指標とし、2.4%を目安として配当を行います。

修正した業績予想及び新たな配当還元指標に基づき計算した結果、配当予想につきましては1株当たり8円から13円に修正いたします。

#### 【資本政策】

当社は、企業の持続的成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、「資本効率の向上」「最適資本構成の実現」「適正なキャッシュ水準の維持」の3つのバランスを取りながら資本政策を推進してまいります。

#### ① 資本効率の向上

当社は、資本コストを意識した経営を推進し、株主資本コストを上回るROE（自己資本利益率）の目標を設定した上で、每期創出したフリー・キャッシュ・フローを成長投資に最優先で配分いたします。

成長投資への判断においては、資本コストを上回るROE又はROIC（投下資本利益率）の目標を定め、それをハードルレートに用いて慎重に検討し、決定いたします。

また、既存事業においても、目標のROE又はROICを基準に事業の継続、改善、撤退など意思決定を行い、収益性の改善を進めてまいります。

## ② 最適資本構成の実現

当社は、株主資本と他人資本を有効に活用し、「資本コストの低減」、「財務安全性」、「流通株式数」などのバランスを意識した最適な資本構成を実現してまいります。

自己資本比率60%を下限として他人資本を活用しながら、株主還元による自己資本の圧縮にも努め資本構成の改善を進めてまいります。

## ③ 適正なキャッシュ水準の維持

当社は、既存事業の安定的な運営維持と成長投資に必要な資金を勘案し、適正なキャッシュ水準を定めます。

定めた適正なキャッシュ水準を基準として、余剰資金は株主還元や他人資本の返済等に充てることにより資本の圧縮に努め、不足資金は最適資本構成を勘案した上で調達を実施いたします。

### 【配当政策】

当社は、企業の持続的成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、株主資本コストを上回るROE（自己資本利益率）の達成を目標に掲げており、成長投資への内部留保を最優先とする一方で、適正なキャッシュ水準の維持と最適な資本構成の実現を勘案した株主への配当還元も重要と考えております。

これを踏まえ、継続的かつ安定的な配当を実現し、また、内部留保とバランスシートの適正化に資する配当方針とするため、DOE（連結株主資本配当率）を配当還元の指標とし、2.4%を目安として配当を行います。

※DOE＝年間配当総額÷（（期首連結株主資本＋期末連結株主資本）÷2）×100（％）

上記の業績予想及び配当予想の数値につきましては、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上